



# ABEST21 e-News

No.68, July 2014

ABEST21

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,  
a 21<sup>st</sup> century organization

URL: <http://www.abest21.org> TEL. 03-3498-6220 E-Mail: [ABEST21@abest21.org](mailto:ABEST21@abest21.org)  
Editor: Fumio Itoh

## ABEST21 Office Report

2014年6月

- ・23日：QMC 経営委員会を開催
- ・30日：QMC 経営委員会を開催

2014年7月

- ・09日：関西国際大学を訪問
- ・15日：株式会社東芝と Case Writing Project について打合せ
- ・17日：第28回マネジメント人材育成協議会を開催
- ・29日：Peer Review Committee 委員長の椿教授と打合せ
- ・30日：東芝総合人材開発株式会社を訪問

## 1. マネジメント教育の質保証 -15

### 認証評価におけるカイゼン

アセアン諸国のビジネススクールを訪問し、ABEST21の教育の質保証の評価のあり方を「カイゼン(Kaizen)」という用語を使って説明すると、そこに出席した多くの教職員の方々から我が意を得たりとばかりに我々の考え方に賛同してくれる。カイゼンは、周知の如くトヨタ自動車株式会社の哲学で、トヨタ自動車創業者豊田喜一郎氏の「我々はより良いものを造っていかうということで、一日一日改良している。」(The Toyota Way 2001, p.7) 考え方に基づいている。カイゼンは環境変化に対応する組織の哲学であるから、大学改革にも通用する哲学でもある。

大学が自らの使命を全うしていくためには未来に存続していかねばならず、近年の環境変化の加速度的な進展を考えると、大学の教育課程のカイゼンは大きな課題である。カイゼンは、大学が“真空の世界”に存在するならば別であるが、現実の“環境変化”の社会に“ゴーイング・コンサーン(Going Concern)”としてその経営を「未来」に持続していくためには、不可欠なコンセプトである。それ故、教育の質保証をする認証評価も教育の質維持向上のためにカイゼンが機能しているかどうかを評価する必要がある。例えば、わが国の「専門職大学院設置基準」の第1条第3項において、「専門職大学院は、この省令で定める設置基準より低下した状態にならないようにすることはもとより、その水準の向上を図ることに努めなければならない。」と専門職大学院の教育の質維持向上の努力が規定されている。従って、認証評価はただ設置基準の教育水準が維持されているかどうかを評価するだけでなく、教育の質維持向上を図るカイゼンが機能しているかを評価するものでなければならない。すなわち、過去のある時点の教育研究活動状況の断面を評価基準に照らして「適格」又は「不適格」の認定をするだけでは、教育の質維持向上の証しは見えてこない。

ABEST21はこの「カイゼン」のコンセプトを認証評価に際して最大限に活用している。それはコモンス（John R. Commons）の制度思想に共通する考え方であるからである。私は、1970-72年と1977年、米国のウィスコンシン大学マジソン校（University of Wisconsin-Madison）でコモンスのInstitutionalism及びInstitutional Economicsを、コモンスの最後の弟子と云われコモンスの“Economics of Collective Action (1945)”を編集したProfessor Kenneth H. Parsonsから学んできた。特に、“取引（Transaction）”と“ゴーイング・コンサーン(Going Concern)”の理論に基づいた現代社会のReasonablenessについて懇切的な指導を受けた。この指導がアジアを基盤としたビジネススクールの教育の質保証システムの構築に結晶し、新しい認証評価の制度化に向けられている。この制度学派の思想がABEST21の心を支えている。

我々がアジアの持続的な経済発展を考えると、アジアの多様な文化に根差す多様な教育制度のなかでアジアの経済発展を支えていくマネジメント力に優れたマネジメント人材の育成がどのように行われていくかに関心を持つ。それはマネジメント人材育成の教育の質保証を担保する認証評価機関がビジネススクールの教育を育ててくるからである。しかし、残念ながらアジアにはビジネススクールの教育の質保証をするアジア固有の認証評価機関はこれまで存在していなかった。欧米の評価機関の評価に依存していた。この文化多様性の社会において、様々な教育制度のもとでマネジメント人材の育成をするビジネススクールの教育の質をどう保証していくか、新しい質保証の制度化への挑戦と云わざるを得ない。

ABEST21は、2005年からこの挑戦を始めて10年が経過しようとしている。この間に日本、中国、インドネシア、マレーシアそしてシンガポールの22のビジネススクールの認証評価をしてきた。特に、2013年度は8校の認証評価をし、2014年度には第一段階の審査が10校、第二段階の審査が8校と増大してきている。この背景にあるのはABEST21の制度学派の思想とカイゼンの哲学に基づくわれわれの認証評価がアセアン諸国のビジネススクールで受け入れられてきたからである。従って、認証評価の指導においては下記の事項についての確実な分析を要請している。

- 1) SWOT分析に基づく「戦略」の策定。環境変化において受審校の「ありたい姿」から「あるべき姿」の実現に導く「戦略」を分析する。「教育研究上の目的」の達成のために、外部環境要因の「機会(Opportunities)」と「脅威(Threats)」の分析とそれにフィットする「強み(Strengths)」と「弱み(Weaknesses)」の内部環境要因の分析に基づく戦略を策定する。
- 2) カイゼン課題の発見。評価基準によるギャップ分析を「教育研究上の目的」、「教育課程」、「教員組織」、「学生」そして「教育研究施設設備」の諸要素について行い、教育の質維持向上を図るカイゼン課題を発見する。
- 3) カイゼン・プロセスの整備。カイゼン課題の発見から解決の実行計画の策定に至るまでのPDCAサイクルが稼働していくプロセスを整備する。
- 4) カイゼンの検証。カイゼンの実行計画が計画通り履行されているかどうかを検証する。

ABEST21は、アジアの多様性と環境変化における教育の質維持向上を評価するシステムの構築に心を砕いてきた。ABEST21はコモンスの制度学派の思想とトヨタのカイゼンの哲学に支えられて、アジアの認証評価の制度化のためにその努力は続いていくが、着実にアジアのビジネススクールでは受け入れられてきており、アジアに軸足を置いたアジアで唯一の国際認証評価機関にまで育ていきたい。(理事長、伊藤文雄)

## General Information

=====

### 1) 2015年3月の会議日程について

2015年3月に開催予定の会議の日程は下記の通りです。

- 1) 2015年3月4日(水) : Peer Review Committee、
- 2) 2015年3月5日(木) : Accreditation Committee、
- 3) 2015年3月6日(金) : 総会と創立10周年記念国際シンポジウム、  
於早稲田大学11号館大会議室

### 2) 創立10周年記念シンポジウムの開催について

この度、早稲田大学のご厚意によりまして2015年度総会と創立10周年記念国際シンポジウムを、2015年3月6日(金)早稲田大学11号館大会議室において開催することになりました。国際記念シンポジウムでは、マネジメント人材の育成を目指すアジアのビジネススクールの教育の質保証あり方について、基調講演とパネル討論を予定しています。ABEST21は2005年7月1日に青山学院大学で国内外の16校のビジネススクールによる設立総会でスタートしましたが、今(2014年7月現在)ではアジアを中心とした20ヶ国81会員数から成る組織にまで発展してきました。ビジネススクールの認証校も22校にまで増えてきました。この度は、早稲田大学ビジネススクール・ディレクターの根来龍之教授のご支援により記念国際シンポジウムを開催いたしますので、ご参集ください。詳細につきましてはABEST21 websiteに掲載していく予定です。

## 2. Research Information

=====

### 1) Case Writing Project について

ABEST21は、2005年に会員校の教材作成の一環として、ビジネススクール教育のManagement, Finance, Marketing, Accounting, 及びOperations and Information Systemの各専門分野の教材を、中国、韓国、日本、ロシア、シンガポールそしてアメリカ合衆国の6ヶ国で、30の教材を開発してきました。その一部の10の教材(ケース)を2006年に“ABEST21-Review”として出版いたしました。教材開発について、Case Writing Project-Fuji Xerox CSRが最初ではなく、既に2006年度において開発しているところからこれまでのJoint Research Projectと区別して、Case Writing Projectとして区別していくこととし、下記の整理をいたしました。

Case Writing Project-1: “ABEST21-Review”,2006

Case Writing Project-2: “ABEST21 Fuji Xerox CSR”,2014(予定)

### 2) Case Writing Project-3 “Toshiba Corporate Governance” について

日本経済新聞に平成26年3月1日から31日まで連載された岡村正氏(東芝相談役)の「私の履歴書」のなかで、第20回「企業統治」で、グローバル化時代における株式市場の海外投資家の受入を促進していくために、2003年4月の商法改正の施行に伴い「東芝はほぼ先陣を切る形で委員会等設置会社に移行した。」と述懐されています。ABEST21は、岡村氏のご了解を得て、先陣を切られた当時の株式会社東芝の企業統治の在り方等について教材を開発することにいたしました。アジアのビジネススクール教育の質維持向上のために“グローバル化に対応した教育研究環境づくり”に教材開発は不可欠であり、この度、株式会社東芝及び東芝相談役岡村正氏の協力を得て、Case Writing Project-2 “Toshiba Corporate Governance”の教材開発をすることにいたしました。開発期間

は 2014 年 11 月から 2016 年 3 月までを予定しています。

### 3) Case Writing Project-4 "Sony Employer Branding"について

消費者が企業に対して持つイメージとして「ブランド」という言葉があります。そしてこのブランドの価値「ブランド・エクイティ」を Interbrand 社はグローバル・ランキングをしています。企業は、これを意識して働く場としての企業の魅力度を求職者に発信していく「エンプロイヤー・ブランディング (Employer Branding)」が優秀な人材を確保していくうえで重要な課題となってきました。欧米の企業はこれを戦略的に行っています。また、このエンプロイヤー・ブランディングをランキングしている企業があります。特に、Radstad 社及び Universum 社がそうです。この度、優秀なグローバル人材を確保していくために求められる「エンプロイヤー・ブランディング」の戦略等について調査研究する機会を、ソニー株式会社のご協力をいただきまして「エンプロイヤー・ブランディング」を調査研究し、教材開発していく機会をいただきました。2014 年 11 月より Case Writing Project-4 "Sony Employer Branding"の教材開発に取り組むことになりました。

## 3. Global Knowledge Network Information

=====

### 1) 創立 10 周年記念式典等の開催について

ABEST21 創立 10 周年、また ABEST21 の源流である「グローバル・クラスルーム国際会議」の設立から 20 周年を迎えます。ABEST21 は、2004 年 6 月 28 日に開催した Global Knowledge Network 2004 の箱根会議で ABEST21 (THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW, a 21st century organization) の名称と認証評価の実施を決定しました。この度、創立 10 周年を迎えるに当たり ABEST21 の発祥の地に立ち戻り、「次の 10 年の展望を語り合う会」を開催いたしたく思います。予定としては、2015 年 7 月上旬に東京で記念式典を行い、箱根で「次の 10 年の展望を語り合う会」を企画しています。写真は 2004 年 6 月 28 日の箱根会議に参加された方々です。



## 4. Quality Assurance Information

=====

### 1) 2014 年度受審状況報告について

ABEST21 は、2007 年 10 月 12 日にビジネススクールの教育の質保証をする認証評価機関として日本の文部科学相より認証されてから 6 年半余の年月が経過いたしますが、受審校数は増大傾向にあり、下表のとおりです。海外の受審校が増えてきています。

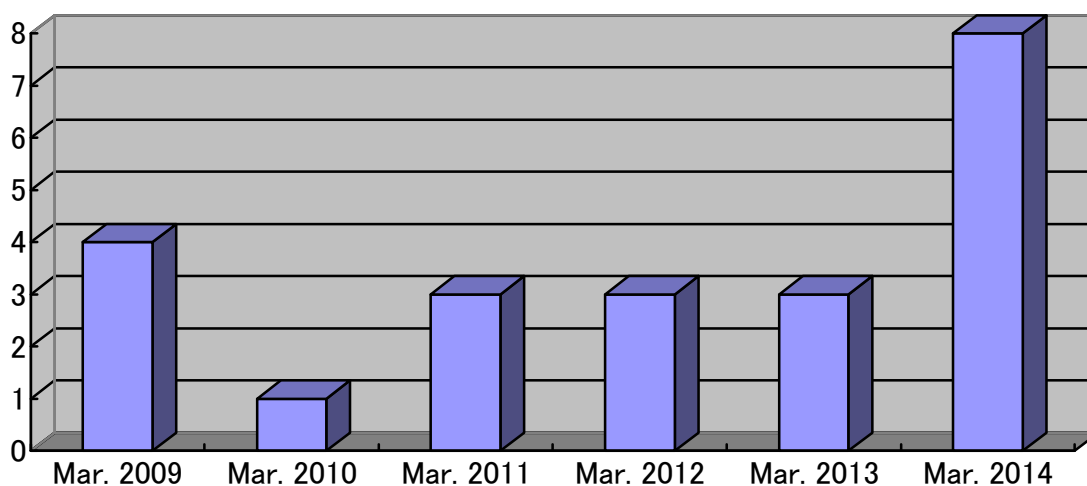
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
受審校数	4	1	3	3	3	8	8	12
内訳：国内	4	1	2	1	1	4	2	2
：海外	0	0	1	2	2	4	6	10

## 2) 認証校数について

ABEST21 は、認証評価機関と認証活動を始めてからこの 6 年半余の間に、下表のとおり世界の 22 大学のビジネススクールの質保証をしてきました。その国別内訳は下表の通りです。

国別認証校

	China	Indonesia	Japan	Malaysia	Singapore	計
初審評価	1	4	9	3	1	18
維持評価	-	-	4	-	-	4



日本の認証校については、ABEST21 の認証対象が経営・MOT 分野の専門職大学院に限定されているため、平成 25 年 7 月現在でのビジネス・MOT 分野の専門職大学院数は 33 校のうちの下記の 9 大学の経営専門職大学院の認証評価をしてきています。

- ・ 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻
- ・ 一橋大学大学院国際企業戦略研究科経営・金融専攻
- ・ 関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻
- ・ 京都大学大学院経営管理教育部経営管理専攻
- ・ 神戸大学大学院経営学研究科現代経営学専攻
- ・ 南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻
- ・ SBI 大学院大学経営管理研究科アントレプレナー専攻
- ・ 筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻
- ・ 早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻

海外大学のビジネススクールの認証校は下記の通りである。

(中国)

- ・ School of Business Administration, Northeastern University, China

(インドネシア)

- ・ Master Programs in Accounting and Management, Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia
- ・ Magister of Management Program, Faculty of Economics and Business, Universitas Indonesia, Indonesia

- ・ Master of Business Administration, School of Business and Management, Institut Teknologi Bandung, Indonesia
- ・ Faculty of Economics and Business, Universitas Padjadjaran, Indonesia  
(マレーシア)
- ・ MBA Program, Faculty of Business Management and Professional Studies, Management & Science University, Malaysia
- ・ Graduate School of Management, International Islamic University Malaysia
- ・ Graduate School of Business, Universiti Sains Malaysia, Malaysia  
(シンガポール)
- ・ Global Masters in Business Administration, SP Jain School of Global Management, Singapore

### 3) Accreditation Plan の審査方法のカイゼンについて

質保証の第一段階の審査である Accreditation Plan の審査は、Peer Review Team を組織し書面審査を実施してきました。しかし、受審校の認証評価に対する組織的な対応の密度を高めるためには研究科長が受審校の提出した Accreditation Plan を Peer Review Committee でプレゼンテーションをしていく必要があることが分かりました。これにより当該研究科の認証評価に対する意識の高揚が図られていくと考えられます。

### 4) Self-Evaluation Report の審査方法について

2014 年度の Self-Evaluation Report の提出校は、下記の 8 校です。これから下記の手順により審査が行われていきます。

- ① Peer Review Team (PRT)による書面審査
- ② Peer Review Committee における PRT 書面審査報告書の審査
- ③ PRT 書面審査報告の合格に基づく PRT の実地調査
- ④ Peer Review Committee における PRT 審査報告書の審査
- ⑤ Accreditation Committee における Peer Review Committee の審査報告書の審査
- ⑥ ABEST21 理事会における Accreditation Committee の審査報告書の審査

2014 年度の Self-Evaluation Report の提出校は、下記のビジネススクールです。

(日本)

- ・山口大学大学院技術経営研究科技術経営専攻(専門職大学院)
- ・関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻(専門職大学院)

(インドネシア)

- ・Faculty of Economics and Business, Universitas Diponegoro, Indonesia  
(マレーシア)

- ・Arshad Ayub Graduate Business School, Universiti Teknologi MARA, Malaysia
- ・Graduate School of Business, Universiti Kebangsaan Malaysia, Malaysia
- ・Yayasan Putra Business School, Universiti Putra Malaysia, Malaysia
- ・Othman Yeop Abdullah Graduate School of Business, Universiti Utara Malaysia, Malaysia

(タイ)

- ・Faculty of Business, Economics and Communication, Naresuan University, Thailand

## 5) 「実行計画履行状況報告 (Kaizen Report)」の審査について

ABEST21 は、教育の質保証のために、認証校に対して認証後 3 年間にわたり、Self-Evaluation Report に記載したカイゼン項目の履行状況の報告（「実行計画履行状況報告 (Kaizen Report)」）を求めています。2013 年度までは、SER の審査を担当した PRT 委員が審査をしてきましたが、2014 年度から 2 名で PRT を組織し、Kaizen Report の書面審査と認証校に対するヒアリングを実施し、PRT 審査報告書を Peer Review Committee に提出することにいたしました。

## 6) Management of Technology (MOT)の認証評価について

ABEST21 は、これまで Scope of Accreditation を経営管理の分野としてビジネススクールの教育の質保証をしてきましたが、これまでの知見と経験を踏まえての昨年 1 年間の議論に基づき、2014 年度より技術経営 (MOT) の分野の認証評価をすることにし、技術経営大学院の受審申請を受理し、審査を開始することになりました。

## 7) Business Economics の相互評価について

アジア諸国において、ビジネススクールにおけるマネジメント教育は多様な教育研究組織形態において行われています。例えば、学部組織を持たない独立大学院組織形態において、または学部と大学院の教育研究組織が有機的に統合された組織形態において、それぞれマネジメント教育は行われています。後者の場合にはマネジメント教育の単一学科行われている場合もあれば、マネジメント教育が経済学や会計学などの学科と併存する複合学科の組織となっている場合が多いです。各学科が完全な縦割制ではなく横断的な教育組織を構成し、研究科においても若手研究者の育成と高度専門職業人養成とを併せ持つ複合的な教育研究組織となっている場合があります。

グローバル化の進展によりマネジメントの教育研究は複雑に錯綜した国際経済経営の諸事象を解明していかなければならなくなりました背景を考え、ABEST21 は Peer Review Committee 及び総会における議論を踏まえて、日本の学校教育法第 109 条第 2 項において規定されている「認証評価」の範疇とは別に、これまでの「相互評価」のカテゴリーで Business Economics の教育が同一の研究科教育組織においてマネジメント教育との相互依存関係で行われている場合に、「Business Economics」の相互評価をしていくことになりました。

## 8) "Accreditation Eligibility" 及び "Accreditation Plan" の有効期限について

ABEST21 の認証評価の主なプロセスは、"Accreditation Eligibility" を得て、"Accreditation Plan" を提出し、本審査の "Self-Evaluation Report" により認証評価の認定を受け、その後 3 年間にわたり "Kaizen Report" を提出しその検証を受けていくものです。認証評価の質保証期間は 5 年ですが、認証評価を受けるに際しての "Accreditation Eligibility" 及び "Accreditation Plan" の有効期間についても考えていかなければなりません。有効期限が定められていないと "Self-Evaluation Report" のデータが "Accreditation Eligibility" 及び "Accreditation Plan" のデータと整合してこなくなる恐れがあるからです。11 月の Peer Review Committee で検討していきたいと考えています。

## 5. Membership Information

=====

### 2014 年度前期の新会員

2014 年度前期において、Membership Committee により承認されました新会員は下記の通りです。  
A-Full School Members



(マレーシア)

- ・ Faculty of Industrial Management, Universiti Malaysia Pahang, Malaysia  
Dean, Dr. Mohd Ridzuan Darun

(インドネシア)

- ・ Faculty of Economics and Business, Universitas Airlangga, Surabaya, Indonesia  
Head of the Business School, Dr. Muslich Anshori
- ・ PPM School of Management, Jakarta, Indonesia  
Dean, Martinus Sulistyono, Ph.D.
- ・ Faculty of Economics and Business, Telkom University, Bandung, Indonesia  
Dean, Dr., Dodie Tricahyono

B-Associate School Members

- ・ 関西国際大学、三木市、兵庫県  
学長、濱名 篤

## 6. Local News

### 1) 神戸大学大学院経営学研究科現代経営学専攻（経営専門職大学院）

神戸大学大学院経営学研究科は「専門職大学院」制度が導入される15年前、平成元年より他大学に先駆けて大学院レベルにおける社会人経営教育に取り組み、アカデミックな大学院教育を基礎にしながら、ビジネスマンのための大学院レベルの高度な経営教育を目的として、本格的なMBAプログラムを開始しました。今年度で25年を迎える神戸大学MBAプログラムは、平成26年3月現在で、1,152人の方が、経営学修士（Master of Business Administration）の学位を取得しています。神戸大学MBAプログラムは、学生自身がビジネスにおける具体的な問題を分析して、



実践に耐える理論の構築を目指す「プロジェクト方式」を教育の基本とし、それを有効に行うために、さまざまな専門的カリキュラムで編成されています。平成20年度からは、土曜日のみの履修で、1年半で修了することが可能となり、学生の利便性を考え、金曜日の夜間には大阪市内でも授業科目を提供しています。平成26年3月、MBAプログラムは、一般社団法人ABEST21が実施する経営分野専門職大学院認証評価を受審し、最高評価である“Excellent”と認定されました。本MBAプログラムが実施している「Research-based MBA Education」が高く評価されています。

神戸大学大学院経営学研究科長は、國部克彦教授です。國部教授は1990年大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程を修了し、経営学博士を取得しました。その後、1990年大阪市立大学商学部に奉職し、助手、講師、助教授を経て、1995年に神戸大学経営学部の助教授に就任し、2001年同経営学研究科教授、2014年同研究科長に選任されました。ご専門は社会環境会計及び環境経営を専攻され、主著に、『マテリアルフローコスト会計』（日本経済新聞出版社）、『環境経営イノベーションの理論と実践』（中央経済社）などがある。日本MFCAフォーラム会長、ISO/TC207/WG8(MFCA)の議長等を務めています。

### 2) Faculty of Business Administration, Chiang Mai University, Thailand

チェンマイ大学は1964年に創立されたタイ北部の国立大学です。Faculty of Business Administration (FBA)は1962年に設置されたFaculty of Social Administrationを前身とし、1992年



に現在の名称に改組されました。FBA はタイ国内でも最も競争の激しいビジネススクールの一つであり、Master Program の入学倍率は約 10 倍です。現在、48 名の専任教員と 57 名の非常勤教員が教鞭をとっています。FBA は社会的意識が高く実践的知識の豊富な学生を育成し、ビジネス社会における、倫理的ガイダンス、マネジメント力を養成しています。FBA の教員は学術的研究に限らずより実践的な研究にも力を注いでいます。Management Innovation center, Business Warning Center は産官、とくにタイ北部の SMEs に関する調査・コンサルティングを行っています。FBA は国際化を推進すべく、ABEST21 や AACSB の認証評価の取得に取り組んでいます。また、タイ国内で 2 校目の UN Principle for Responsible Management Education (PREME) のメンバーになりました。FBA は企業サステナビリティと社会的責任の普遍的な価値の創造に従事しています。



Dean Siriwut Buranapin は、米国マサチューセッツ工科大学スローンマネジメントスクールで Master of Science (Management) を取得後、英国ポストン大学にて DBA (Organization Behavior) の学位を取得されました。2012 年 10 月より Dean of Faculty of Business Administration に就任されています。現在は、タイの証券取引所に上場している金融機関の独立委員会の委員長としても活躍され、タイの教育省より多くの大学の評議委員に任命されています。最近では CMU の Deans Meeting にて、大学審議会の委員に選出されました。

### **3) Master of Management Program of Satya Wacana Christian University, Indonesia**

Satya Wacana Christian University (SWCU) は Indonesian Christian Teaching Educational Tertiary Institution を前身とし、1956 年に 9 つの教会によって設立されたインドネシアのジャワ島中部、ジョグジャカルタ近郊の高原都市サラティガにキャンパスを有する私立大学です。Master of Management (MM) は 2000 年に設立されました。MM プログラムは、“グローバルな視点の高度な創造性を有するプロフェッショナルマネジャーを育成するトップレベルの教育機関となる”事をビジョンとして掲げられており、Professor Christantius Dwiatmadja が 2006 年より MM プログラムヘッドに就任されています。



Professor Christantius Dwiatmadja はオランダ、フローニンゲン大学にて、Human Research Management の領域にて博士号を取得されました。

MM-SWCU は、インドネシアの認証評価機関である BAN-PT より A の評価を授与されました。これは、MM-SWCU が教授と学習過程の質の継続的な改善によりグローバルな考えに基づき創造的なプロフェッショナルマネジャーを育成しうる信頼できる教育機関である証しです。MM プログラムは新卒学生を対象としたフルタイムプログラムと社会人を対象としたフレックスタイムプログラムで構成され、提供する多様な考え方や研究領域、経験、文化を有する環境は、視野を広げるだけでなく、授業中のディベートやディスカッションの質を高め、なにより強い結び付きや国際的で多様なネットワークを学生達が構築する機会を提供します。MM プログラムの目標は CREATIVE と呼ばれており、Comprehensive、Relationship、Enthusiastic、Academically excellent、Truthfulness、Innovative、Visioner、Entrepreneurship を表しています。優秀な教授陣のサポートにより、Human

Resource Management, International Management, Marketing Management, Finance Management, and Church Management の5 領域に特に力を注いでいます。

**Lecturer's profile of Master of Management Program of Satya Wacana Christian University**

No.	Name of lecturers, Skill and Latest Education
1.	Prof. John J.O.I. Ihalauw, Ph.D.(IOWA State University – USA) Professor of Marketing Management
2.	Prof. Hendrawan Supratikno, MBA,Ph.D (Vrije Universiteit – Amsterdam, Holland) Professor of Strategic Management
3.	Prof. Christantius Dwi Atmadja, SE.,ME.,Ph.D (University of Groningen, Holland) Professor of Human Resource Management
4.	Prof. Supramono, SE.,MBA.,DBA (De La Salle University, - Manila, The Philippines) Professor of Finance Management
5.	Prof. Dr. Ir. Sony Heru Priyanto, MM (Brawijaya University – Malang, Indonesia) Professor of Agriculture Management
6.	Prof. Daniel D. Kameo, MA.,Ph.D (University of New England, Australia) Professor of Development Management
7.	Prof. Dr. Ir. Kutut Suwondo, MS. (The University of Amsterdam, Holland) Professor of Social Politics
8.	Prof. Sutriyono, M.Sc.,Ph.D (University of Malaya – Kuala Lumpur, Malaysia) Professor of Statistics
9.	Hari Sunarto, SE.,MBA.,Ph.D (Vrije Universiteit – Amsterdam, Holland) Finance
10.	Harijono,SE.,MAF.,MCom (Hons).,Phd (Monash University, Australia) Finance
11.	Prof. Ir. Daniel Manongga M.Sc.,Ph.D (Univeristy of East Anglia, England) Informatics
12.	Ir. Lieli Suharti, MM.,Ph.D (University of Putra Malaysia) Strategic Management
13.	Marwata,SE.,M.Si.,Akt.,Ph.D (Monash University, Australia) Accounting
14.	Rooskities Andadari, SE.,MBA.,Ph.D (Vrije Universiteit – Amsterdam, Holland) Marketing
15.	Prof. Dr. Ir. Eko Sedyono.M.Com (Universitas Indonesia – Jakarta, Indonesia) Informatics
16.	Dr. Muana Nanga, SE.,M.Si (Institut Pertanian Bogor, Bogor, Indonesia) Development Economics
17.	Dr. Jony Oktavian Haryono, SE.,MM (Universitas Indonesia – Jakarta, Indonesia) Marketing
18.	Dr. Sri Sulandjari SE.,M.Sie (Institut Teknologi Bandung – Bandung, Indonesia) Production
19.	Dr. Suzi Novianti SE., MMAkt (Universitas Diponegoro – Semarang, Indonesia) Accounting